



ラオス南部パークソンのノンギヤセン村における 無農薬アボカド栽培レポート

NPO法人Treasures of The Planet

1. ノンギャセン村



- ラオス南部最大の都市パクセーから約70km東にある標高約1200mボーロベン高原頂上部の村。
- 人口約700人。
- 植民地時代はフランス人の避暑地。

1. ノンギヤセン村



- 電気は通っているが、水道はなく井戸も少ないため雨水をためて生活している。
- トイレがない家が多い。
- 学校は小学校が一つだけ。もっと学校を増やしたい。
- コーヒー豆で有名だが、コーヒー豆収穫時期（11-12月）以外は、野菜や米を作って生活している。

1. ノンギャセン村



- 2016年、ノンギャセン村から約70km離れたラオス南部最大都市パクセーに日系企業専用工業団地開発スタート。
- 他にも中国企業などがパクセーに進出し大規模な都市開発がスタート。
- 今まで無農薬で野菜を育ててきた美しい土地が危機に直面している。

2. アボカド栽培



ノンギャセン村で無農薬コーヒー農園を運営しているカムソンさん

NPO法人Treasures of The Planetは、2017年、コーヒー農園を運営するカムソンさんの土地5ヘクタールにアボカドの苗320本植えた。

今までに無農薬でアボカドを育てた経験があるカムソンさんのアドバイスを受けながら、アボカド栽培を始める。

アボカドの収穫期は6月から8月で、コーヒー豆の収穫期（11月から12月）と異なるため、農民たちに新しい雇用を作ることが出来る。

将来大量に収穫できるようになれば、アボカド加工品を製造し、その収益で井戸、トイレ、学校を作ることが出来る。

2. アボカド栽培



コーヒーの皮を与えたアボカドと与えなかったアボカドでは成長が随分異なる。
Treasures of The Planet は、毎年、300袋のコーヒー豆の皮をアボカドの肥料として使っている。

2. アボカド栽培



2017年11月
農園用井戸を掘る。

2. アボカド栽培



アボカドの苗は10m間隔で植えられ、2019年までは、毎年1回土地を耕す。
雨期には雑草取り、乾季には、水やりをする。

2020年からは、アボカドの木と木の間にはほかの植物を植えていく予定。

2. アボカド栽培



2018年7月、47本が枯れ、
103本はゆっくりと育ち、
170本は元気に育っている。

無農薬のため、害虫にやられて
枯れるアボカドが多い。また、
苗によって強い苗と弱い
苗がある。

農薬は使わず、強いアボカド
の成長を期待する。

2. アボカド栽培



**2019年1月、農園で火事発生。
36本のアボカドが焼ける。**

それで、2019年2月から、毎日農園で働くラオス人を2名雇うことにする。（後、1名やめてしまい、現在1名が働いている。）

2. アボカド栽培



2019年4月、雨期の雨水を貯める貯水タンク (4mx6mx4m)を作る。

2. アボカド栽培



2019年5月、Hassという高級アボアドの苗20本を含む116本のアボカドの苗を追加して植える。

2. アボカド栽培



2019年6月草刈り。刈った草は1週間乾燥させ、アボカドの根本を覆う。数日後、アボカドの木に虫がついているのを発見。全てのアボカドの木をチェックし虫を取り除いた。8本のアボカドに虫がついていた。コーヒー豆の皮だけでなく、水牛の糞尿も肥料に使い始める。

2. アボカド栽培



2019年9月、ラオス南部で洪水発生。標高1300mにあるアボカド農園は無事だった。

2. アボカド栽培



2020年5月、高さ3m以上に成長したアボカドは、5本。2m以上の木はたくさんあります。Hassは、20本中8本枯れる。今年は、新しく87本の苗を植える。今年は、COVID-19のため、ラオスに行けないが、カムソンとSNSで連絡を取りながら、アボカドの成長を確認中。